

マンガ『ヒカルの碁』の大ヒットで、子どもたちの間で囲碁ブームが起こったのは今から10年ほど前のこと。現在は、若い女性の間で静かなブームを呼んでいるという。その背景には各地の棋院の地道な普及活動もさることながら、華やかな女流棋士の存在も見逃せない。関西棋院に所属する小西和子氏に、女性と囲碁文化について語っていただいた。

男女平等な囲碁の世界

囲碁をはじめたのは小学校3年生の頃です。父がプロ棋士から手ほどきを受けていて、私にも「習ってみたら?」と勧めてくれたのがきっかけ。もともと勝負好きの性格だったので、たちまち囲碁に夢中になり、「プロになりたい」と思うようになりました。でも周囲には囲碁をやっている女の子なんていなかったから、学校ではずっと秘密にしていました(笑)。

女流棋士というと、女流同士でしか対局しないと誤解している方がたくさんいます。特別に女流タイトルはありますが、実は基本的に男女ともに同じタイトルを目標に、同じ土俵で戦っています。近年は女流の力が向上し、男性のトッププロに勝つことも珍しくないんですよ。でも残念ながら女流で七大タイトル(棋聖・名人・本因坊・十段・王座・天元・碁聖)を獲得した人はまだいないのですが…。

ともあれ、男女一緒に同じ条件で戦う競技は、囲碁において他にはあまりないように思います。囲碁は保守的なイメージとは裏腹に、女性にとって開かれた社会なんです。

昔、中国では「琴棋書画」(琴、囲碁、書、画)は文人の教養とされ、日本でも『源氏物語』や『枕草子』でお姫さまたちが囲碁に興じるシーンがあるように、囲碁は知的で優雅な遊び。関西棋院の入門講座も女性に人気ですし、囲碁が楽しめる「エストレラ」(天五中崎通り商店街)というおしゃれなカフェなどもあって、最近では若い女性ファンが増えていることを実感します。

将棋と囲碁の違いとは

「囲碁と将棋の違いは何ですか?」とよく聞かれます。一般的に左脳と右脳のたとえで説明されることが多く、「将棋は左脳に比重が置かれている」「囲碁は右脳と左脳の両方を使っているけれど、どちらかというと右脳をよく使っている」のだそうです。

私自身は、理論と記憶力がものをいうとされる将棋に対して、囲碁は感性と直感力に負うところが大きいと感じています。

将棋対コンピュータでは、女流最強の方が敗北したそうですが、ファジーさのある囲碁では、まだ人間が優勢です。碁打ちの脳を調べると、数理的に答えをばじき出している人よりも、盤面を画像としてとらえている人が多いのだとか。その感覚は言語ではちょっと説明が付きません。私の場合は画像というより「嗅覚」という感じです(笑)。

こういう囲碁の特性からみても、女性に向いているのではないかと思います。

7大タイトルの3つが関西に

関西の棋界は今、非常に盛り上がりを見せています。それは、日本の7大タイトル中の3つが関西にあるからです。現在、関西棋院所属の棋士では、坂井秀至氏が碁聖、結城聡氏が天元、日本棋院関西支部では井山裕太氏が名人を獲得していますが、これは関西にとっては史上初の偉業なんです。

棋士にとっても良い刺激となっていて、棋院全体

が活気を帯びています。私自身もそういう空気の中に身を置くことでタイトルへのこだわりを再確認し、前向きになります。

囲碁は手談

囲碁は日本や中国、韓国、台湾はもとより、世界中に愛好家が出て、世界アマチュア選手権戦には60カ国以上もの国々から代表者が参加します。私もヨーロッパや中国などへ遠征し、各国の方と対局したことがあります。対局を通じて友達になった方々もいるんですよ。言葉は通じませんが、対局すると不思議と心が通じ合うのです。いわば言葉を越えたコミュニケーション。囲碁が「手談」といわれる所以ですね。

勝負だけではなく、「心・技・体」のバランスを重視し、高い精神性を有する囲碁の世界…。といってもルールは意外と簡単なんですよ。どなたでもすぐ覚えられますから、やったことのない人はぜひチャレンジしてみてください。一人でも多くの方に囲碁の魅力を知っていただければうれしいですね。(談)

小西和子(にし かずこ)

関西棋院所属。水野弘士九段に師事。大阪府出身。中学2年生の時、院生(プロ養成生)になり、1989年8月16歳で入段。2004年5月八段昇格。第19期女流鶴聖戦準優勝。第7、8期女流最強戦準優勝。第5期関西女流囲碁トーナメント優勝。2008年WMSG北京大会に参加するなど、海外遠征の経験も多数。

囲碁教室 問い合わせ先
関西棋院 541-0041 大阪市中央区北浜二丁目1番23号
電話 06-6231-0186
ホームページ <http://www.kansaiikiin.jp/>

関西棋院にて



【小西和子氏に聞く】
囲碁 女流棋士八段
女性の囲碁ファンが増えています。